



5月19日(土) シェアサイクルで新職員研修 西原を巡り歴史文化を学ぶ



ニシバル歴史の会から説明を受ける様子(西原の塔)

令和5年度の町役場新採用職員15人を対象に、シェアサイクルを活用して町内の戦争遺跡・歴史文化スポットを巡る職員研修に取り組みました。

今年度から事業展開しているシェアサイクルを使った新職員研修を初めて実施しました。

新職員15人は、電動自転車に乗り、月桃の歌碑、西原の塔、小波津弾痕の残る石碁、内間御殿などの戦跡や歴史文化スポット6か所を巡りました。

各スポットでは、ニシバル歴史の会のガイドによる説明が行われ、西原の歴史文化の理解を深めました。



電動自転車ですいすい

6月 西原中学校・西原東中学校
戦没者の名前を読み上げる



西原東中学校 多和田 龍さん



西原中学校 江田 亜依音さん

「沖縄「平和の礎」名前を読み上げる集い」(同実行委員会主催)に西原中学校と西原東中学校の全校生徒が参加し、西原町で亡くなった方の名前読み上げを行いました。

各中学校の生徒らは、慰霊の日に向けて平和学習をしており、戦没者への思いをはせて亡くなった方一人ひとりの名前を読み上げました。

西原中学校では同学校区域で亡くなった3,290名の名前を読み上げ、西原東中学校では同学校区域で亡くなった2,953名の名前を読み上げました。

西原中学校3年生の上原琉稀さんは「この日のために戦争について調べてきた。どんな思いで戦争で亡くなったかを考えながら名前を読み上げました。平和な世の中になってほしいです」と話しました。

西原東中学校3年生の大城優愛さんは「戦争を起こすのも、起こさないのも今生きている私たちしかできない。戦争のない世界にしたいです」と話しました。

5月22日(日) ～少子高齢化社会に立ち向かう～
支援者の学び



少子高齢化により、介護の人手が不足するという課題について学ぶ講演会がさわふじ未来ホールで開催されました。

講演会では「～超高齢化に立ち向かう～これさえあれば怖くない」というテーマ

で、逢坂伸子さんが講話しました。

講師の逢坂さんは大阪府大東市役所の理学療法士で、先進的に地域ケアマネジメントに取り組み、アドバイザーとして全国の自治体を支援しています。

逢坂さんは「これからも高齢者は増え続け、労働人口は足りなくなる。その備えとして介護がいらない健康寿命を延ばすことが大事。そのためには「ああ、しんどお」と思う程度の体操を継続する必要がある。でも一人で継続するのは難しいので、ご近所さん同時などの仲間でするのが一番!」とアドバイスしました。

参加者から、地域で体操サークルを続けるコツは?との質問に「体操は継続が大事。地域で魅力ある通いの場を増やしましょう!」と呼びかけました。

6月8日(日) 坂田小学校 西原の塔で平和学習

慰霊の日を前に、坂田小学校6年生の児童が沖縄戦について学ぶ平和学習を西原の塔で行いました。

平和学習では「ニシバル歴史の会」のガイドにより沖縄戦の悲惨さや西原の塔についての説明がされました。児童らは戦没者刻銘碑、旧西原村役場壕、爆撃を受けてもなお生き残るフクギなどを実際に見ながら熱心に説明を聞いていました。

続いて行われたセレモニーでは西原の塔へ献花し、児童全員による「平和のメッセージ」と「月桃」の合唱が行われ、平和への思いが響きわたりました。

渡辺夕術那さんは「戦争がない平和な世界になってほしいです」と話しました。



「月桃」を合唱する様子



ニシバル歴史の会から説明を受ける様子



戦没者刻銘碑を清掃する様子

6月9日

生活に困っている方のために
食料品寄贈

積極的に社会貢献事業を行っている、永賀株式会社(黄 怡怡代表取締役社長)から「コロナ禍で経済的に困っている方々に役立ててほしい」と町へ食料品が寄贈されました。今回で2回目の食料品寄贈となります。

崎原町長は「昨年に続き食料品を贈呈していただきありがとうございます。支援が必要な方のために活用していきます」と話し、町社会福祉協議会と一緒に御礼状を贈りました。

寄贈された食料品は、町社会福祉協議会を通して、生活に困っている世帯へ届けられます。

【お問い合わせ】

福祉課 社会福祉係 ☎098-945-4791

社会福祉協議会 ☎098-945-3651

◆寄贈品

・手延べ素麺 1,120袋

・いわしの甘露煮 520袋

6月12日

祝！西原高校 県高校総体 5種目制覇！



5月から行われた、県高校総体において西原高校が5種目で栄冠をつかみとりました。主将らは崎原町長へ優勝した喜びと九州・全国大会への熱い意気込みを報告しました。

崎原町長は「5本の優勝旗を見たのは初めて。沖縄県の代表として九州・全国大会でも頑張してほしい」と激励しました。

今大会はコロナ禍を経て4年ぶりの観客ありの開催となりました。西原高校は全校生徒で決勝の応援に駆け付け、優勝へ大きく貢献しました。九州・全国でもチバリヨー！！

★女子バレーボール部(3年ぶり12度目の優勝)

主将 大嶺若日子さん(後列右から1番目)

「応援ありがとうございました。九州・全国大会でも頑張りますので応援よろしくをお願いします！」

★女子バスケットボール部(2年連続9度目の優勝)

主将 島村羅莉さん(後列右から2番目)

「応援してくれた生徒の前で優勝できて良かったです。沖縄のバスケットが全国でも通用することを見せつけたいです！」

★男子バレーボール部(2年連続27度目の優勝)

主将 平良展也さん(後列右から3番目)

「生徒・父母の応援のおかげで優勝することができました。全国ベスト8を目指して頑張ります！」

★男子卓球部(初優勝)

主将 仲村和親さん(後列右から4番目)

「初優勝することができて嬉しいです。九州・全国大会でも勝利を目指して頑張ります！」

★男子サッカー部(16年ぶり5度目の優勝)

主将 久高宗馬さん(後列右から5番目)

「生徒の応援もあり優勝できました。九州・全国でも勝利をつかみます！」

文化財

祝！當眞嗣一氏

「東恩納寛惇賞」受賞

今年三月に、西原町出身・在住の當眞嗣一氏(※)が、沖縄を対象とした研究の発展に顕著な功績を挙げた研究者に贈られる第四十回東恩納寛惇賞を受賞されました。また、その前年には、全国で文化財の保護、活用、普及などに関連して顕著な活動をおこなった個人・団体を表彰する第二十三回和島誠一賞も受賞されています。

當眞先生の専門は考古学で、グスクの考古学調査による実証的研究の第一人者です。また、沖縄戦により残された構築物(遺構)等を考古学的手法を用いて調査・研究すること、戦争の実相を伝え残すことの必要性を訴えるなど、「戦跡考古学」を提唱した第一人者でもあります。

その先生が、本町の文化財の保護、活用にも大きく関わっています。その業績について、一部ではありますが紹介したいと思います。

當眞先生は、「西原町史」の発刊を目的に立ち上げられた西原町史編集委員会の委員として、昭和五五年度から平成一四年度の間、西原町史第二巻から第七巻までの発刊に携わっています。その中で、第三巻「西原の戦時記録」、第四巻「西原の民俗」では専門部会員、第五巻「西原の考古」では専門部会長を務めました。

また、西原町の文化財保存・活用に関する諮問機関である西原町文化財保護審議会では、平成元年度から平成九年度、平成一四年度から平成

二九年度と、実に二五年もの間、委員や会長という立場で、多くのご指導・ご助言をいただきました。ちなみに、この任期中、本町が保護すべき文化財として、「内間御殿のサワフジ」を町指定天然記念物に、「西原旧宮里家屋敷跡」、「旧西原村役場跡」、「西原石畳道」を町指定史跡にするための、文化財の指定についてもご尽力いただきました。

さらに、現在、整備中である「内間御殿」も国の史跡に指定される前から平成三〇年度まで、内間御殿に関する様々な委員会の委員長として、保存・整備・活用について貴重な指導・助言をいただきました。その内容をもとに、令和二年度に整備基本計画を見直し、令和三年度より、その整備計画に基づいて整備を進めているところでです。

當眞先生には、これまで本町の文化財保護行政に対して、長年にわたる多大なるご貢献をいただきましたことに、改めて厚く感謝するとともに、先生の今後の益々のご活躍をお祈りいたします。この度は、「東恩納寛惇賞」の受賞、誠にめでたうございます。

※1 グスク研究所主宰、前原高校教師を経て、沖縄県教育庁文化課課長、沖縄県立博物館館長を歴任。また、これまでに沖縄考古学会会長、琉球弧世界遺産学会会長なども務めた。

お問い合わせ文化課 文化財係 ☎944-4998